

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2191500046 | | |
| 法人名 | 株式会社 やさか | | |
| 事業所名 | グループホーム あんき | | |
| 所在地 | 岐阜県中津川市坂下931-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年3月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JiyosyoCd=2191500046-008PrefCd=21&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 平成25年1月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、地域に根差し、必要とされる開かれたグループホームを目指している。 ・ご利用者一人ひとりの思いを大切に、自主性を引き出せるような関わりと支援を目指している。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>木曽路の入り口にあり幹線道路から少し奥まった住宅地の中の、木造建築の平屋建てのホームである。恵まれた自然環境の中で、利用者の主体性を尊重し、家庭的で生きがいの持てる暮らしを提供している。また、地域の人達と交流を深め、馴染みの人や場の関係を大切にしながら、笑顔で穏やかに過ごせるように支援している。毎年、市内の消防署員・デイサービス職員・病院職員・グループホーム職員・介護老人施設職員等の研究会で事例発表を行い、地域福祉の向上に貢献し、事業所の存在感を高めている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業理念を常に意識しながら業務にあたり、日々の実践に繋がられていると思う。 | 地域と連携しながら、「その人らしい暮らしを、その人が主体で作るケア」を理念としている。職員会議で理念を確認・共有し、利用者が、地域の中で当たり前暮らしが継続できるように実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的ではないが、野菜を届けて下さったり、地域行事への参加、またホームでの行事への参加など交流は持っている。 | 自治会に加入し、ドンド焼き(左義長)や秋祭り・清掃活動に参加している。ホームのイベントに地域住民を招待したり、ボランティアが、まんじゅう作りや五平もち作りに訪れている。保育園児や陶芸家による干支作り等、地域の人々と日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在の所、運営推進員会などで話をしたり、行事などに参加して頂くことによって理解を深めて頂けるようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 様々な話し合いが出来ている。また、意見や要望があった際には、謙虚に受け止め改善等に取り組んでいる。 | 隔月に行政・自治会・民生委員・介護推進者・老人会・近隣住民・家族等で会議を開催している。ホームの運営・外出報告や災害訓練計画・介護予防事業等の意見を交換し、サービスの向上につなげている。 | 運営委員会への欠席者が多く、参加しやすい日時・曜日・議題について、再度委員会や職員間で検討して、関係者への働きかけに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 研修事業への協力や介護要望事業の委託などにより市への連携はとれている。 | 介護予防事業の受諾や研修事業の協力、事故報告や困難事例を相談し、アドバイスを受けるなど、市と連携や協力関係は出来ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全ての職員が理解しているかは不明だが、日々身体拘束をしない様なケアの仕方についての話を申し送った職員会議で話をしている。 | 職員会議で、拘束禁止を話し合い、認識を共有して、身体拘束しないケアを実践している。利用者の主体性を尊重して、言葉・行動・精神的拘束の具体例をあげて、全職員で学んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修があれば参加している。また、日々申し送りや職員会議等でのアザなどの報告、防止に努めている。 | | |

岐阜県 グループホームあんき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 成年後見センターの事例検討会に参加しており、学ぶ機会はあるが、職員全員ではない為機会を設けたいと思っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 時間を掛け十分にはなしが出来るように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見要望があった際には出来る限り対応している。運営推進委員会や行事等での要望も伺うようにしている。 | 家族の面会時・電話等で意見や要望を引き出している。家族から下肢筋力低下予防の希望、ドライブによる気分転換や散歩の拡大等の意見があり、ホームの運営に活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回、職員会議を行い、その場で聴いている。また、毎日の申し送り等でも意見や提案を聴けるようにしている。 | 職員の意見や要望は、職員会議や日々の申し送りの機会を設けている。勤務帯の調整や業務上の気づき、食事時間に軽音楽を流して、雰囲気改善等の意見や提案があり、運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常に職員の体調等への配慮、職員が気持ち良く働ける様な環境作りを行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修には出来る限り参加してもらっている。また、希望があれば、研修に参加出来る様な勤務体制を整える体制がある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 周辺地域の事業者との研修事業などへの参加により交流出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 出来る限り、本人の思い等聞けるように時間を掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 出来る限り時間を掛けて、話を伺っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント時に伺った事を基に支援を行っている。また、その都度本人の思いも大切にしながら行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家での共同生活と考え、出来る限りご自分で行える事は行いながら、支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との関係は大切にしている。受診も出来る限りご家族にお願いし、一月ないしは二月に一度は面会が出来るように心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | お墓参りや自宅付近へのドライブ等、また友人の来所などが出来るようにしている。 | 友人や親せき関係者の訪問がある。馴染みの喫茶店の店主や外食先の食堂へ継続して出かけ、ドライブ先の、田立の滝・馬籠や近郊の道の駅等も馴染みの場所である。関係者や関係場所の継続を大切に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | その時の気分に寄って変化するが、お互いに気遣いが出来ている様に感じる。また、関わり合いが持てるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族の要望などがあれば対応出来るようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わり合いの中での会話などから把握に努めている。また、その都度、要望に応えられるようにしている。困難な場合でも、何をしたいのか？と言う事を探せるよう努めている。 | 日常生活の会話や行動、表情から思いや意向の把握に努めている。困難な人は、生活歴や家族から情報を得ている。目に見えるようにして選択肢を提示し、思いを確認し、その人らしい暮らし方を支えている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントでの内容を顧みる様心掛けている。また、部屋には馴染みの物を置いて頂く様努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の申し送り等で把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者制にしている為、担当者を中心に、他の意見も聞き反映できるよう努めている。 | 担当者を中心に、介護記録からケアの在り方を、職員全員で、評価・検討し、介護計画に反映している。家族や利用者の意見や要望も聞き、かかりつけ医のアドバイスも参考にして、利用者本位の介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日申し送りなどで振り返り、情報の共有を行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その日その日に生まれるニーズに対応出来るようにしている。 | | |

岐阜県 グループホームあんき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 全ての方にはとはいえないが、出来る限り把握出来るように努め、活用できるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 出来る限り御家族にお願いしているが、定期的に主治医に手紙などを作り、体調等の報告を行っている。 | これまでの、かかりつけ医を、家庭生活の延長として継続している。また通院や定期受診は原則家族に同行を依頼している。専門医への通院は、ケア上の指導やアドバイスを目的で、職員が通院介助をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週水曜日に訪問看護師に来て頂いているので、随時報告、相談等行い、受診等に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 出来る限り、ご本人の情報を伝えたり、渡せるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階での話し合いは持っていない。話が合った際には、現状で出来る事を御家族等には話をさせて頂いている。 | 重度化や終末期の支援について、口頭で本人・家族に概要を説明している。家族と方針が合意できるように、文章による指針づくりを検討している。 | 重度化や終末期の支援について、家族が理解できるように、ホームの出来る事、出来ない事の方針を文章化することを期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 実践力まではいかないが、現在対応出来るよう、救急法などの外部研修も行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災・夜間想定避難訓練など行ってとれている。 | 避難訓練は、1年に2回実施している。地域の協力体制は、緊急時に庭先の門柱に備え付けた黄色の非常灯ランプが回転して、近隣に異常を伝える事ができる。備蓄品も用意してある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩である事を忘れない様心掛け、尊重するケアを行っている。 | 日常生活の会話や行動は、自尊心を傷つけないようにおだやかな表情で接している。排泄誘導・入浴の声かけ・何か依頼する時は、利用者の尊厳を大切にされた態度で対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々に話をする中で希望を聞けるように心掛けている。自己決定出来るようにしているが、難しい場面も多くなっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを重視し、出来る限りその人の思うよう生活が出来る様努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出来るように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る限り行っているが、準備や片付けには偏りが見られる事もある。 | 品数の多い献立を提供し、食べる楽しみや喜びになっている。また、利用者の好みや苦手なものを把握している。定期的に外食の機会を設け、食の関心を高めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個人に合わせた水分補給を行い、必要に応じて行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後は行っていない。就寝前には義歯消毒や口腔ケアを行うように、もしくは行って頂く様に声をお掛けしている。 | | |

岐阜県 グループホームあんき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの把握に努めている。出来る限りご自分で行って頂けるように支援している。 | 排泄パターンを把握して、自立を支援している。夜はポータブルトイレを使用したり、排泄量に応じた尿取りパットを選択している。排泄のサインを見落とすことなく、失敗を減らし、自信につなげている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝のヨーグルト提供を行っている。また、主治医と連携し、薬の処方なども行って頂けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの希望を全ては難しいが、出来る限り本人の希望やタイミングに合わせられるよう支援している。 | 利用者の入浴習慣を優先して就寝前の入浴や時間に対応している。ヒノキの浴槽で、ゆったりと入浴を楽しんでいる。又、月に1回は、地元の温泉に出かけ、気分転換や元気回復に役立っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣に合わせたいが、全員がリビングに出てみえる為、声を掛けても休息を取られる事はあまりない。ソファーでくつろいで頂けては居る。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 理解に努めている。症状の変化は、毎日の申し送り等で把握できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 楽しみごとや気分転換等は出来ている。一人ひとりとなると出来ていない方もいるので、その方法を模索している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | お墓参りや自宅付近へのドライブ等行っている。 | 広い庭や近くの道の駅までが、日常の散歩コースになっている。喫茶店・外食・道の駅に、職員と一緒に出かけた。季節の花見、紅葉狩り、そばの花見や桃の花見等へ、家族と協力して出かけている。 | |

岐阜県 グループホームあんき

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自身で持たれている方はすくないが、持っている方は外出時等持って行き、使われる事もある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば出来るようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ソファは全て違うものにし、わかり易くなるよう心掛けている。大きな音、湿度、温度、光には特に注意している。季節感の花など置い出す様に心掛けている。 | 居間には、車椅子用のコタツや、ゆったりできるソファを設置している。暖房用の赤々と燃えるペレットストーブに生活感がある。神棚に毎日手を合わせ、日々穏やかに、居心地よく過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った方同士が座れる環境を作れるようにしている。共有空間で、一人になる場所を作るのは建物の構造上難しい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来る限り本人が使っていた馴染みの物、賞状・家具など持って来て頂くようにしている。 | 馴染みの整理タンス、家族の写真・時計・人形などを配置している。自分の居室とわかるように、木製の表札に飾り棚を設け、暖かい雰囲気、安心できる居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来る限り行っているが、全ての方という点では難しい所もある。 | | |